

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2372101390
法人名	社会福祉法人 瑞穂会
事業所名	グループホーム かみさの家
訪問調査日	平成20年11月21日
評価確定日	平成21年1月13日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372101390
法人名	社会福祉法人 瑞穂会
事業所名	グループホーム かみさの家
所在地 (電話番号)	愛知県岡崎市上佐々木町字大宮43番地 (電話) 0564-34-3666

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年1月13日

## 【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16.3 人	

### (2) 建物概要

建物構造	平屋 造り (一部 2 階 建ての 1 階部分)
------	-----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 1,390 円	その他の経費(月額)	水道光熱費等実費
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり	880 円	

### (4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85.2 歳	最低 71 歳	最高 102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇野病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム理念の「ゆっくりと 楽しく 普通の生活を…」の実現を目指し、管理者の「介護は創造」の信念で、利用者のその人らしさを支えるサービスを提供している。職員は、管理者の思いを共有・周知し、常にさらに上を考え、「他の方法」「他の可能性」を追求し、留まることのない改善・工夫を繰り返している。

ホームの日常は、いたって「普通」である。中で暮らす利用者は、当たり前のように「自分のことは自分でやる」を実行し、「できない事は、できる人が助ける」の共同生活を送っている。開設から5年、立ち上げからここまでの体制作りを実現した管理者の努力・職員の努力は計り知れないものがある。家族の協力も大きい。「家族介護の日」は未だ継続しており、家族が利用者の介護を行い、職員が全員で研修を行っている。おそらく、効果はそればかりではないのであろう。利用者と家族の関係継続、また、家族が職員の日々の努力を知る機会となっているのは言うまでもない。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、重度化・終末期の取り組みで、看取りも視野に入れた勉強会開催、対応充実が課題となっていた。現在、重度化・ターミナルについての勉強会は計画通りに進捗し、職員間の情報・方針の共有、意識の統一を図っており、「最後までホームに居たい」利用者・家族の安心に配慮した、実践への準備は着々と進行している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を実施し、ホームの取り組みを評価している。ホーム内に改善委員会を設置し、自己評価から見出した改善点に計画的に取り組む体制がある。また、外部評価の意義をよく理解し、評価結果を職員で周知するとともに、ホームの更なるサービスの充実につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。行事の報告、ホーム検討課題、事故報告等の現状報告を行い、活発な意見交換の場となっている。恒例となっている地域行事参加・交流も会議での協議に依るところが大きい。また、外部者のホーム運営に対する助言・意見に対しては、改善に向けた取り組みにつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3か月毎に開催する家族会で、ホーム全体の運営報告を行っている。その他、家族来訪時・ケアカンファレンス時等の機会に、利用者毎の状況・状態報告を行っている。また、家族会の機会に、職員が席をはずし、家族間での話し合いの場を設け、ホーム・職員に対する意見・要望をまとめてもらい、代表者に報告をお願いしている。聴き取った内容は職員間で共有し、ホーム運営・取り組み・サービスに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	日常の散歩・外出時、地域・学区行事参加等、地域との交流は多い。地域防災訓練・学区の文化祭参加等、ホームの恒例行事とも言える取り組みにつながっている。また、ボランティア・実習生受け入れなど、地域からホームへの交流もあり、良好な関係が推察できる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で暮らす利用者の生活を支える、事業所独自の理念を策定している。ホーム理念を基本方針に落とし込み、ホーム運営の基礎としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念 方針 実践の流れを確立し、理念の理解を以て日々の支援に取り組む体制がある。職員採用時・ホーム内研修・会議等で理念・方針の意義の理解を周知し、具体的実践案を職員間で協議し、取り組みにつなげている。文書化した理念は各ポジションに掲示し、日常生活への啓蒙を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩・外出時、地域・学区行事参加等、地域との交流は多い。地域防災訓練・学区の文化祭参加等、ホームの恒例行事とも言える取り組みにつながっている。また、ボランティア・実習生受け入れなど、地域からホームへの交流もあり、良好な関係が推察できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施し、ホームの取り組みを評価している。ホーム内に改善委員会を設置し、自己評価から見出した改善点に計画的に取り組む体制がある。また、外部評価の意義をよく理解し、評価結果を職員で周知するとともに、ホームの更なるサービスの充実につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。行事の報告、ホーム検討課題、事故報告等の現状報告を行い、活発な意見交換の場となっている。恒例となっている地域行事参加・交流も会議での協議に依るところが大きい。また、外部者のホーム運営に対する助言・意見に対しては、改善に向けた取り組みにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政との連携を図り、高齢者介護の環境面についても様々な対応を働きかけている。利用者が車椅子で公共施設に行ける様に、スロープ・車いす用の座席の設置を依頼し、市が実現化を図る等の事例もある。また、併設の法人施設も含め、市職員の研修・研究現場となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月毎に開催する家族会で、ホーム全体の運営報告を行っている。その他、家族来訪時・ケアカンファレンス時等の機会に、利用者毎の状況・状態報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月毎に開催する家族会の機会に、職員が席をはずし、家族間での話し合いの場を設け、ホーム・職員に対する意見・要望をまとめてもらい、代表者に報告をお願いしている。聴き取った内容は職員間で共有し、ホーム運営・取り組み・サービスに反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係でのサービス提供を基本とし、各ユニットは職員固定での支援を実践している。新採用の職員の紹介・離職職員の挨拶等についても、家族も含めた機会に行い、混乱を避けている。また、特に急な離職が起こらないように、組織としての体制確立に努めている。		組織の一員として、個人の目標を持ち、個々の職務の全うを考える体制は、結果として離職率の低さにつながっていると考えられる。利用者の生活を支援する責任感も含め、職員の高い意識には共感できる。また、それをまとめ、さらなる力に方向付ける管理者・リーダーの力量も見事なものである。今後も、理念達成・実践に向けての更なる努力をお願いし、期待するところである。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が勉強会に参加する方針でホーム内研修を計画している。テーマを決めて開催される法人内研修にも参加を促す等、職員のスキルアップへの取り組みは盛んに行われている。その他、外部研修参加については本人の希望・意向に沿って、自由な参加を可能にしている。		職員育成の体制としては十分であり、現時点の職員のレベルの高さを考えても、取り組みの効果の有効性は検証できる。ホームの今後の課題として、認知症の進行・経過への対応、職員間での共有、指導者育成等を検討しており、今後の進捗が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会の参加・介護事業所部会の参加等で同業者との交流を深めている。地域が水害に見舞われた際、ボランティアでグループホームの復興活動に参加し、他ホームの利用者を法人特養に受け入れる等、有効な相互交流を果たしている。また、他ホームと職員の交換研修を行い、相互評価を行った実績もある。		管理者は、人材の育成がホームの質の向上につながる事を理解し、リーダー育成・指導者育成に努めている。同業者との交流もその一環として位置付け、職員交換研修・相互評価で、他ホームの取り組みを体験し、自身のホームを振り返り、サービスの向上に活かす取り組みを実践し、効果を上げている。取り組みの継続と共に、相互の向上に向けた交流推進を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームのサービスについて、申し込み・見学時に十分に時間をかけて説明を行い、利用について、相互が納得の行くまで話し合っている。サービス利用決定後も、日中時間帯に何日か通ってもらうことを提案し、他の利用者・職員と馴染んでから入居に至るケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、利用者それぞれの特性・能力・興味等を把握し、利用者の「自分の出番」に配慮している。利用者の得意分野の「知恵袋」はホームの宝であり、職員の財産ともなり、支え合う家族同様の雰囲気がうかがえる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者の生活歴の把握はもちろんのこと、日常生活の会話の中から本人の希望・意向を聴き取っている。意思表示が困難な場合にも、利用者の表情・行動からの気持ちの汲み取りに努め、本人本位の希望実現につなげている。		利用者の、一言の「つぶやき」を聴き取る職員のコミュニケーション能力・馴染みの関係確立は、ホームのサービスの質の確保につながっている。認知症の進行に伴う意思表示の困難を思うと、ホームが課題としている、認知症に対する理解の共有等がうなずけるところである。職員育成も含めた今後の進捗が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ケアマネージャーが中心となり、利用者の意向・希望を把握し、家族の意向・希望、関係職員の意見を踏まえ、あくまでも本人本位の介護計画を立案している。利用者毎に、その人がその人らしく暮らせる支援方法を明示している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月毎に介護計画の定期的な見直しを行っている。その他、利用者の状況・状態変化時には随時迅速に見直しを実践している。職員は利用者の状態観察を徹底し、申し送り・ミニカンファレンス等で情報の共有を図り、利用者の現状に即した対応を実現している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの特性を活かし、利用者の「その人らしさ」を支える支援の軸として、利用者毎の生活の役割分担を明確にし、「共同生活」を実現している。職員は、利用者の生活を見守り、利用者・家族の「できないこと」の手助けをし、共同生活を支えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携医は良好な関係を確立している。急変時の往診も可能であり、利用者・家族の安心にもなっている。その他、提携医・利用者かかりつけ医等への付き添い受診支援、家族と医師との関係作り支援等、柔軟な対応がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの課題として、今年度の重点施策としての取り組みがある。利用者家族に「重度化に伴う基本方針」についての説明を行い、内容の同意を取り付けている。職員に対しては、ターミナルケア・終末期の在り方等の勉強会を重ねている。		重度化・ターミナルについての勉強会は計画通りに進捗し、職員間の情報・方針の共有、意識の統一を図っており、「最後までホームに居たい」利用者・家族の安心に配慮した、実践への準備は着々と進行している。管理者ヒアリング時に「職員は知識が身につけているからこそ怖がる。」の言葉が非常に印象的であり、方針の進捗の検証ともなった。管理者の言う「今後の予想図」である方針の展開に期待するところである。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修実施・個人情報についての勉強会等、利用者のプライバシーを重視した取り組みがあり、日常支援につなげている。訪問調査日の視察でも、利用者一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉掛けをしている事が感じとれた。また、外部者が目にする記録については、利用者のイニシャルを使用する配慮もある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調査日の限られた時間の中でも、全く自由な利用者本位の暮らしぶりがうかがえた。日中時間の過ごし方は、散歩・外出も含め、利用者の希望・意向・目的に沿って支援している。その人らしさを実現する、利用者毎の介護計画実践こそがホームの方針であることが容易に推察できる視察であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、食事の準備・後片付けを、能力に応じて役割分担し、楽しそうに行っていた。利用者と職員がメニューを考え、畑の作物・鶏小屋の卵も食材にし、日常生活の中の食事を楽しんでいるようである。約1時間位時間を掛け、ゆっくりと食事を楽しむ風景は、家族全員が集まる団欒の雰囲気があった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日の提供がある。本人の希望・意向に沿って、入浴時間を工夫し、入浴が楽しみな時間になるように配慮している。利用者と職員合作の、端切れを利用した個人袋に、入浴時の着替えを入れ、共用空間で下着を持ち歩く事の無い様に工夫し、同時に、カバンを提げてお出かけの演出には、まさに入浴が楽しくなると感じた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴・特性・特技・趣味等を把握し、残存能力に考慮して、日中活動を役割り分担している。午前中の活動時間には、掃除・畑仕事・片付け等、それぞれが役割を果たし、職員は見守り役に回っている。調査時の視察でも、やりがいをもって、活き活きと活動する利用者の姿があった。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・外出は、本人の意向・希望に沿って、日常的に支援している。また、庭では野菜作り、花作りなどを行い、目的を持った戸外活動支援にも配慮がある。近隣の寺詣り・買い物等の個人対応もあり、ホームのできる限りの支援がうかがえた。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な「普通の生活」支援の一環として、ホームのどの場所にも施錠を行わない方針がある。職員もそれをよく理解し、利用者毎の特性・行動パターンを把握し、見守りの徹底に努めている。各居室の掃き出しの窓にはぬれ縁が設置されており、そこを出入り口にして庭に出る利用者の姿もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームに於いて、定期的な避難訓練を実施している。また、地域協力の合同避難訓練を継続し、同時に、地域への災害時の協力依頼につなげている。本年夏の地域集中豪雨の際の復興ボランティアで、「万が一の場合への対策」を学び、ホームの運営・方針に具体的に活かす取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養摂取についての指導・助言を行っている。糖尿病等の食事の配慮・食事介助の配慮等、利用者毎の状況・状態に合わせた適切な支援を実践している。水分摂取についても、毎食時・お茶の時間・おやつ等で一日の摂取量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋造り・ホーム内の自由移動の利点を生かし、利用者毎の居場所作りの配慮がある。閉塞感がなく、自由に行動できる空間を、利用者と職員で居心地の良い場所に工夫し、「普通の生活の場」を作っている。空調・採光・音等の適切な管理、季節感の配慮など、利用者の生活空間として何ら問題は感じられない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問調査の視察時、居室を案内してくれたどの利用者も、自室を自慢し、ホームでの生活を誇らしげに自慢していた。タンス・仏壇・椅子・テーブル・テレビ等の使い慣れた家具を配置し、家族の写真を飾り、居心地の良い場所がお気に入りの様子であった。		